

滄水会ニュース

第11号

平成9年4月1日

滄水会

職業能力開発大学校

〒229-11 神奈川県相模原市橋本台4-1-1

知名度アップにご協力を

平成8年10月に開催されました滄水会総会において、前年度に引き続き、会長の大役をお預かりすることになりました。ここに、滄水会ニュースをお届けするにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

前任期中の国内の経済状況は、景気回復が望まれながら、わずかな期待も長続きせず停滞感を拭えないまま平成9年を迎えるに至りました。この間、収益をあげることが困難になった企業が多い中、ニーズを的確に把握し、タイムリーな展開を通して業績を伸ばした企業も見られました。このような状況の中で認識させられますことは、ニーズに対応できる、より高度な商品の開発努力が求められていることです。このためには、個々の技術や能力のみならず、多くの集団の力を複合的に結集しなければなりません。

母校である職業能力開発大学校からは、年々柔軟な考えを持った、新しい人材が社会に輩出されております。また、滄水会には、多くの優秀な方があらゆる分野で業績を残されておま



会長 尾身 嘉一

す。情報の伝達が容易になった今、会員相互の縦横のコミュニケーションによる理解と支援が求められていると思います。

こうした中で、滄水会はどのような活動をすべきでしょうか。確かに、前期の3年間は、「新人の強み」で思い切ったことをやらせてもらいました。①初めて雇用促進事業団の理事長に表敬訪問したこと。②在校生とのパイプを太くする意味から、大学の協力を得ながら、優秀な学生に「賞」を与えるようにしたこと。③能開大との話し合いも幾度と無く設けさせもらい、コミュニケーションを深めたこと。などなど、滄水会として事業団、大学、学生とのつながりを強めてまいりました。

今期も、この姿勢は堅持しつつ、新しい仕事にもチャレンジしていく意向です。

現在一番関心があることは、能開大の知名度アップです。振り替えてみれば、当初中央職業訓練所としてスタートし、その後、職業訓練大学校となり、そして現在の職業能力開発大学校となりました。職業訓練大学校の名前が一番長かったのです

が、学生数が少ないのに加え、文部省管轄外の大学校というこ
とで知名度はもう一つでした。

しかも、再度名称が変わり、大学校名を広く一般の人に知っ
てもらうには、さらなる努力を要するようになりました。

やはり、何と言っても大切なのは知名度です。お年寄りから
小・中学生にまで知られてこそ、広く優秀な人材を集めること
ができるのではないのでしょうか。

「職業能力開発大学校」が神奈川県にあり、広いキャンパス
で、優秀な学生を育てていると言うことが、受験生にだけでも
わかれば、遠い将来を見越したときに、必ず会員相互のプラス
になるはず。これに限らず、皆様からの広いアイデアを求
めております。是非ご報告下さい。

(1965年(第1回)卒、木材加工科 建築専攻)

平成8年滄水会総会 報告

滄水会総会が10月12日(土)に東海大学交友会館において開
催されました。当日は出席者数164名、委任状数941名の中で、
1993年10月から1996年9月に至る滄水会の事業内容概要につい
て次のような報告がありました。

事業内容概要 (1993年10月～1996年9月)

- (1) 新会員の勧誘
- (2) 滄水会ニュース第8号～第10号の発行
- (3) 滄水会会員名簿発行
- (4) 滄水会賞の創設
- (5) 滄水会通常総会の開催

会員数は、本年をもって4232名になり、一段と会の発展が期
待されるようになりました。続いて収支決算報告、会計監査報
告が行われ、次期予算案が審議され承認されました。

新たに、1996年10月～1999年9月までの次のような事業計画

が決定しました。

事業計画 (1996年10月～1999年9月)

- (1) 滄水会ニュース第11号～第13号の発行
- (2) 滄水会名簿の充実、発行
- (3) 第2回～第4回滄水会賞授与及び授与式の挙

また、役員改選を行い、尾身嘉一会長を中心とした新役員が
選出されました。

恒例の講演会には日本相撲協会八角部屋の八角親方をお招き
し、「我が相撲道」の講演題目で修行の苦労話などについて貴
重な体験談を聞くことができました。続いて行われた懇親会
では、懐かしい顔ぶれの中で、閉会の時間を忘れるほど盛会とな
り、思い思いに話の輪ができ、楽しい会を催すことができました。

滄水会新役員

会長	尾身 嘉一	(建1)
副会長	日下 正次	(鑄3)
	松沢 良治	(板7)
	荒 隆裕	(電13)
理事	河野 益己	(木10)
	谷口 雄次	(建12)
	米谷 宏明	(運14)
	江尻 浩司	(機18)
	松野 史幸	(福23)
	矢野 牧人	(電23)
会計監査	多喜 敏夫	(電13)
	藤井 信之	(溶18)



講演会「我が相撲道」日本相撲協会八角部屋八角親方

第2回 滄水会賞授与式

平成8年度滄水会賞授与式が、3月25日職業能力開発大学校多目的実習棟ホールにおいて、卒業式に続いて挙行されました。尾身嘉一会長の挨拶の後、卒業生一同の中で、8名の受賞者に対して滄水会賞として賞状と記念メダルが授与されました。

本年は、平成5年度から発足した、国費外国人留学生の第1回卒業生を送り出す記念すべき年度であり、産業機械工学科のチャダラット・ノブノブさんもその一人です。日本人学生を含めた中で受賞です。



滄水会賞を受賞した チャダラット・ノブノブさん

滄水会賞は、長期課程4学年在籍者で将来社会において大いに貢献が期待される者を対象として授与されます。言語の壁を超えて、受賞されたチャダラット・ノブノブさんの姿は、後進の在校生たちの励みとなるに違いありません。

また、続くパーティーでは、恒例の鏡割りが行われ、熱気の中で盛会にとり行われました。



鏡割り (パーティーにて)

第2回 滄水会賞受賞者

チャダラット・ノブノブ	産業機械工学科
江守 真	生産機械工学科
吉田 和正	電気工学科
西野 知義	電子工学科
米田 光伸	情報工学科
黒木 宏之	建築工学科
小出 美幸	造形工学科
金子 剛久	福祉工学科

能開大近況報告

職業能力開発大学校 副校長 河西 正信



能開大の近況については、まず職業能力開発総合大学校構想について報告しなければなりません。このことについては既に中央職業能力開発審議会の答申が出され、労働省は法律改正案を通常国会に提出することにしています。その基本となる考え方や法律案要綱が出されており、骨格は明らかになっておりますが、具体的な内容についてはこれから検討が行われるところも少なくありません。

中央職業訓練所として発足し、職業訓練大学校として卒業生を送り出し、職業能力開発大学校と名を変えて4年、ここに来

て再度大きな発展を遂げることになります。

平成8年度に策定された第6次職業能力開発基本計画において、公共職業能力開発施設における職業訓練のあり方について、特に職業訓練短期大学校については、在職者訓練の機能の充実を含め、そのあり方について検討することとされました。これを踏まえて、辻東京工業大学名誉教授(元青森短大校長)を座長とする「産業社会の変化に対応した職業訓練のビジョンを考える懇親会」で検討が行われ、「産業構造の転換・技術革新に対応しうる「高度実践技術者」を育成するために」というリポ

ートが出されました。このレポートの考え方を基礎として、労働省は職業能力開発制度の改善(案)をまとめ、中央職業能力開発審議会に諮問し、1月23日に了承されました。

改正案の「基本的考え方」の本校に関連する主な点は、次の通りです。

『公共職業訓練の高度化を推進する。特に高度職業訓練(短大における訓練)の充実強化を図る。』

- ① 生産工程の構築・合理化や製品開発等にも深く関与できる高度な人材(いわば高度実践技術者)を育成するため、現行の2年の専門課程修了程度の者を対象に、2年間の新たな実践課程(仮称)を創設する。
- ② 在職労働者の高度職業訓練を充実強化するために、研究開発支援型コース等を中心とする企業人スクール(仮称)を設置する。
- ③ これからに対応して高度職業訓練実施体制の整備充実を図る。

イ 団立の短大のうち各ブロックの拠点校に実践課程を設置し、職業能力開発大学校(仮称)とする。

ロ 実践課程等の訓練を指導できる高度の能力を有する指導員の養成を強化するために現職業能力開発大学

校の研究課程を拡充するとともに、現行の職業訓練指導員の研修体制を充実強化する。

また、現職業能力開発大学校と東京職業能力開発短期大学校を統合し、「職業能力開発総合大学校(仮称)」に改組する。

これにより、a. 職業訓練指導員養成体制の強化を図り、b. 職業能力開発研究に対する調査研究を行う機能に加え、c. 教材開発、指導方法等の調査研究と密接に連携した先導的・中核的な職業訓練を自ら行うことにより、その効果を実践的な調査研究と職業訓練指導員の養成に結びつける体制とする。』

これらの改革は、平成11年4月から実施することとなります。

今後具体的な内容が固まってくるものと思いますが、諸先輩が築き上げた本校の伝統を守り発展させ、新しい時代の職業能力開発に大きな役割を果たしていけるようにしていくことが、現在本校に勤務しているものの責任であると考えております。これから改革の進展に伴い様々な問題が生じるものと思いますが、諸先輩のご理解と暖かいご支援をお願いします。

これまでの15年間を振り返って

サイエンスパーク株式会社 代表取締役社長 小路 幸市郎



滄水会の皆様におかれましては、お元気で御活躍のことと存じます。私は、現在、サイエンスパーク株式会社という社員8名のベンチャー企業の経営者です。卒業から現在までの15年間を振り返ってみると以下の3つのコアに分けられます。まずは卒業後、武蔵工業大学電気工学科放電工学研究室の技術員となり、2年間勤務し、さまざまな人とお会いできたこと。次にベンチャー企業(株)メカトロニクスへ転職。私が入社後、約8年間の間にわずか従業員3名の会社が100名近くの会社へ成長し、その後、本業と違う土地取引に失敗して倒産するまでを間近で見たこと。最後は、平成6年5月に現在のサイエンスパークを創業したことであります。サイエンスパーク(株)は、ファームウェア(ハードウェアとCPUに近い部分のソフトウェアを合わせたもの)に特化した研究開発を志向する会社です。ファームウェアの開発力を基に、他分野との異業種協力で製品開発を行う提案型の研究開発企業を目指しております。たとえば、機械のスペシャリストとの協力であれば、ご存知のメカト

ロニクスになりますし、化学のスペシャリストとの協力では、ケミトロニクスとでもいう様な分野が誕生します。現在は大手メーカーの研究所や開発部門の委託研究開発が中心です。大手メーカーとの付き合いでは、基本契約書で知的所有権が大手メーカー側にのみ帰属する仕組みとなっており、委託研究開発のみでは下請けの領域をいつまでも抜け出せません。そこで、会社をさらに発展させるためには自社製品の開発が必要となってきました。ただの一発屋では仕方ありませんので、確かな裏付けのある技術力に基づいた製品開発を展開する手段として、トップレベルの複合分野の片側(トロニクス側)になり切ることを考えております。現在も異業種ベンチャー企業とのジョイントを行っており、近日中に自社製品の第一号も完成する予定です。

さて、滄水会の会員の皆様方をお願いをひとこと述べさせていただきます。以前、早稲田大学理工学部のある教授とお話させていただいた際に、当学部の立身出世の人物は中退されていますがCSK(株)の大川 功社長だとのことでした。その関係で

ビジネススクールを含めCSK(株)とは、密接な関係があるとのことでした。そのときに滄水会の会員も卒業生に限らず、中退者や職員の方々まで本人の希望があり会費を払って下さった方は、会員になって頂くということにはどうかと思いました。組織を活発に維持して行くために有効会員の数を増やすことは、良いことだと思いますが、皆さんは、いかがお考えになられるでしょうか。

最後に滄水会の諸先輩方々に、この紙面をお借りしてお礼申

し上げます。事業を開始してから、大変に面倒を見て頂き、ありがとうございます。これからも、よろしくご指導ご鞭撻の程をお願い申し上げます。

また、もしも、事業を起こす様なことがあればいつでも相談に来て下さい。実質的な手助けは無理かもしれませんが、精神的な部分でサポートさせていただきます。

(1981年(第17回)卒、電気科)

近況報告

青森県工業試験場 研究管理員 岡部 敏弘



最近日本を騒がせている出来事に、産業廃棄物の処分場をはじめとするゴミ騒動があります。これまでは川原や原野に建築廃材などが大量に捨てられていたというような話でしたが、最近では処分場建設に絡んで自治体の長が襲撃されるという大変物騒な話まで発展してきております。

決して国土面積が広いとは言えない我が国では、産業廃棄物は、海洋、発展途上国、首都圏に影響がない国内の過疎地に捨てられました。しかし、国際的な環境保護の立場から、海洋投棄や発展途上への運搬・廃棄は禁止される方向にあり、また、国内処分場もすでに満杯の状況にあります。つまり、我が国にはこれ以上ゴミを捨てる場所がない状況にあるわけです。

ゴミを出さないようにする方法は大きく2つあります。一つは、文明的な活動の一切を停止してしまうことですが、現実問題としてこれは全く不可能な話です。もう一つは、これまでゴミとして処分してきたものを原料にすること。つまりリサイクルすることです。そのためには、ゴミを原料に応じて分別することが必要になりますし、製造側もいわゆる性能の良いものだけでなく、廃棄後のリサイクルを考えた設計をする必要があります。

私も木材の廃材を利用した多孔質炭素材料「ウッドセラミックス」を開発しました。エコマテリアルつまり環境調和型の材料として世界的に注目を浴びています。昨年の12月17日のズームイン朝に、私どもの広告紙を原料としたウッドセラミックスが取り上げられ、全国より大きな反響がありました。樹脂コーティングされた広告紙は、印刷の仕上がりを良くするために様々な樹脂が使用されているため、紙としての再利用が不可能ですが、ウッドセラミックスはセルロース系原料と樹脂系原料の複合材料を炭素化して作るため、コーティングに使用されている樹脂はウッドセラミックスの性能にほとんど影響を与えません。また、生産に際して出る分解物(炭焼きで木酢液に相当する成分)も、有機農法の防菌材や防虫剤として使用することが可能であり、使用後の廃棄に際しても、有機微生物の住処になるなどの優れた特徴があります。雇用促進事業団の中でも研究テーマとして取り上げて頂いています。興味のある方は是非訪ねて下さい。大歓迎です。

(1979年(第15回)卒、木材加工科)

片山津温泉にて

安田火災自動車研究所 AIRハイテクセンター 秋山 昇

定刻の午後3時38分に石川県JR加賀温泉駅に降り立った。身を差す冷たさが我が身を襲うと想像していたが、東京とほとんど変わらない寒さであった。雪を見るのが好きで期待してきたが、それさえなかった。

駅の周辺を散策しつつ15分たち、大阪より特急電車が到着し

た。改札口から出てきた大学時代からいっしょで今回の幹事に「お疲れ様」と声掛けてタクシーに乗り込んだ。行き先は、片山津温泉と告げ、約15分後に到着した。ホテルには、すでに九州から1人到着していた。部屋で昔話をしている間に東京より3人、そして名古屋、三重より2人到着。ちょっとした持病で

入院中の1人を除けば、全員揃ったことになる。それからは、全員で温泉につかり、6時から宴会となった。私が訓大14期。最後に入社してきたのが、25期。しかし全員がお互いに知っていて、歳の差なんて関係なく、最初から和気あいあいと時間が過ぎていった。

大学を卒業していつのまにか、丸18年が経過しようとしている。この会社に訓大より初めて入社した、私と今回の幹事(会社では2人とも訓大卒の一期生)以来、今まで12人が入ってきた。しかし現在では3人退職して、9人が在籍している。今回の旅行は、この会社に在籍する訓大卒者(すべて運輸装置科)の初めての同窓会。今回の幹事が発起人で、気まぐれから声をかけてきたものだ。

さて我々は、入社すると何年かは東京の新宿で仕事をするが、その後は転勤する。全員転勤の経験者で、将来どこに行くかということが話題になった。仕事は自動車保険事故の調査および査定で、どこに行っても仕事の内容は変わらない。事故に対する利害関係の間に立つ仕事ゆえ、悩むことも多い。そのため希望としては、地元に戻って慣れたところで仕事をしたいという人が多かった。

転勤発表は、赴任する日の約2週間前。日数的には、非常に辛い。まもなく転勤時期を迎えることになる。この中で何人が転勤するか解らないが、どこに行っても再びこの会で会うことを約束した。全国組織の会社にも関わらず、学校というつながりがあることを強く感じた。当社は、損害保険会社の子会社。最近、アメリカのおかげで保険業界が変わってきている。そのためこれからを不安視する人が多くいたが、負けてはいられない

いと仲間意識を強くした会であったような気がした。
 (1978年(第14回)卒、運輸装置科)



片山津温泉にて(筆者下段中央)

在籍者一覧

名 前	勤 務 地
14期 田島 大嗣	大阪(南港)
14期 秋山 昇	東京(新宿)
15期 大熊(大木)良治	三重(松阪)
16期 藤沢 茂樹	大分(大分)
18期 山下 康弘	東京(新宿)
18期 増田 成利	福岡(福岡)
19期 安藤 浩孝	愛知(名古屋)
20期 坂崎俊一郎	神奈川(横浜)
25期 染矢 哲男	東京(蒲田)

海外で活躍する卒業生 ～中国～

雇用促進事業団職業能力開発指導部能力開発支援室指導役 福谷 格
 (元：中国天津職業訓練指導員養成センター長期派遣専門家)



日本の26倍の国土を持ち、56の民族で構成され、13億の民を抱える中華人民共和国(中国)において、いま「職業訓練」が国の重要な推進課題となっている。膨大な人口を抱える中国の発展は優秀な技能労働者の双肩にあるという認識に基づき、中国政府は職業訓練指導員の養成に最大限の力を注いでいる。

改革・開放政策のもと、産業の近代化を図るためには大学レベルの職業訓練機関が必要不可欠である。1991年、中国政府は国家8次5カ年計画を立案し、産学共同による技術者、技能者の養成を打ち出した。その結果を受けて、中国政府は日本政府に対し大学レベルの職業訓練指導員養成機関の設立と機材の供

与、専門家の派遣を要請してきた。日本の労働省及び雇用促進事業団は、国際協力事業団と提携し、日本における職業能力開発大学校に相当する「中国労働部職業訓練指導員養成センター」の設置と18億円の機材供与、ならびに5カ年にわたる技術指導を約束した。

1994年11月から開始された「中国労働部職業訓練指導員養成センター」の技術指導には、職業能力開発大学校、東京職業能力開発短期大学校の教員があたることとなり、現在までに職業能力開発大学校を卒業した7人の長期専門家(任期2年)と7人の短期派遣専門家(任期6週間)が活躍してきた。

当センターには、生産機械、情報、制御、電子、自動車の5科があり、実学融合を推進するために日本の専門家は日夜奮闘している。言葉の障害を乗り越え、政治思想の異なりを乗り越え技術指導を推進できるのは職業能力開発大学校の卒業生であるという事実を中国側に示し、中国側もそれを認めるまでになっている。現在、職業能力開発大学校の行っている指導員養成の教育訓練体系が、「真の指導員養成」を目指しているものか否か、それは読者の卒業生諸氏の判断におまかせするが、能開大卒の職業訓練推進能力が海外において高く評価されていることは事実である。中国のみならず、世界の多くの開発途上国が

職業能力開発大学校の卒業生に寄せる期待は、日本で考えている以上に大きいものがあり、卒業生もまたその期待に応えることが望まれる。行政改革で揺れ動く「能力開発」業務を、日本の視野ではなく世界的視野で望めば、卒業生に課せられた「課題の大きさ」、「仕事のやりがい」、「将来に向けた夢」を認識することができる。

職業能力開発大学校の卒業生の活躍と大いなる飛躍をお祈りいたします。

(1968年(第4回)卒、運輸装置科)

近況報告 ～中国ビジネスの狭間で～

J U K I株式会社 工業用マシン事業部企画部部長 鈴木 孝廣

今年も新入社員の入る季節になった。不安と希望に満ちた若者を見ると何か新しい勇気と気力のようなものが湧いてくる。昭和49年の入社式で新入社員代表として、誓いの言葉を述べたのが昨日のここのように蘇る。少ない初任給を母に渡したとき、何か随分大人になったような気がした。1年間、先輩社員達の実習指導を受け、アルバイトでない社会人の厳しさを実感したとき、父の存在がより大きく感じられ、新たな尊敬の念を抱いたものだ。

あれから23年の時が流れた。日本企業経営の基軸であった終身雇用は、企業環境の変化の中で修正を余儀なくされ、国家財政の破綻は公務員の雇用すら脅かしている。日本の製造業の空洞化は大卒の就職浪人を創出する。アジアの国々に現地採用で職を求める女子大生を見る時、この23年変わらぬものは日本女性の強さとストックングだけなのか、技術者不足から転職者が急増し、複数の会社の雇用経験を持つ人が離婚経験者と同様に増えている。ところが私は、今までの日本のビジネスマンがそうであったように、J U K Iという会社に23年変わらずお世話になっている。

だが、禅僧が一つの場所で座禅をするように、本社に勤務していた訳ではなかった。子会社に3度出向したし、そのうち2社は海外であり、言葉・習慣・価値観などの違いにカルチャーショックを受けずに入られなかった。3～4年の周期で職場異動を繰り返し、アクション映画を観るように仕事環境はめまぐるしく変化した。特に、最近の3年間は、家族を犠牲にして中国とのビジネスに、そのほとんどの時間と情熱を費やし、中国

出張は30回に達した。成果物として合弁会社と独資会社を1社ずつ、中国人スタッフと共に設立させた。2社合わせての投資総額約20億円、多くの金を使わせてもらったものである。この客観状況から、この3年間私が充実した日々を過ごしたと判断するのは早計である。中国ビジネスは、自己常識の否定から始まった。海外で生活してみると日本人がいかに特異な民族であるかを再認識する。日本の常識が如何に世界の非常識かを認識する。それまで私は、国際人であると自負していた。現在でも中国以外では、その感覚に狂いがないと信じている。しかし、日本以上に中国は特異な国であった。以前から東南アジアのビジネスで中国人との付き合いはあったが、その経験はこの3年間に於いて一切意味を持たなかった。国際常識の廃棄、そこから中国ビジネスは始まった。100年を1ユニットと考える事、1つの頂点の意向なくして担当者の意見は意味を持たない事、利権に関する貧欲なまでの執着力。”人間についての再考をした3年間であった。”という意味で禅僧の座禅に似ているかも知れない。しかし、苦痛である日々がいつの間にかゲーム感覚で仕事を処理でき、多くの優れた中国人に出会う度、楽しいものに変わっていった。

荒野の中に新しい工場が立ち上がって行くのを見る時、3年間の思いが走馬灯のように脳裏を駆け巡り、如何なる人間性をも理解しうる能力の芽生えを感ずるのは中国ビジネスを経験した人間の共通意識ではあるまいか。

(1974年(第10回)卒、第二電気科)

滄水会維持寄付のお願い - 会費資格20年を迎えられた会員の皆様へのお願いです -

滄水会会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。滄水会では、会員資格20年ごとに滄水会維持発展のため維持寄付をお願いすることにしております。滄水会の活動は、会員の皆さんの入会費と寄付金によって支えられております。20年の節目に、是非、滄水会を盛り上げていただきたく、お願い申し上げます。

本年度の維持寄付依頼対象の方の卒業年は1977年（13回卒

業）です。次の要領で払い込み下さい。
維持寄付金額：一口5,000円（何口でも結構です）
維持寄付金払い込み方法：同封の振替用紙をご利用の上、最寄りの郵便局からお振り込み下さい。
(本年度維持寄付依頼対象の方と現在未納の方に振替用紙を同封しております。)

会費納入のお願いと住所変更連絡について

同窓会名簿上の会費未納者の方の取り扱いを1995年から変更し、氏名のみ掲載させていただいているところですが、残念ながら、現在でも多数の会費未納の方が居られます。卒業生の皆様が一人でも多く加入していただくことが、滄水会全体の力になります。この機会に是非、納入いただきますようお願いいたします。

会費未納者の中には住所不明者が多数居ります。会員の皆様には申し訳ございませんが、未納者の中でお知り合いの方がいらっしゃいましたら、会費納入の呼びかけをして頂けるようお願いいたします。

さらに、新年度に入り、新たな人事異動等のために、住所や勤務地が変更になられた方も多と思います。滄水会事務局では24時間FAXを受信することができます。変更を生じた方は、

会費振り込先

会費：10,000円

口座番号：00150-3-45350

所在地：〒229-11 相模原市橋本台4-1-1 滄水会

FAX：0427-63-9267

住所変更連絡表に変更内容を記入の上、事務局までFAXまたは郵送にて連絡いただけますようお願いいたします。なお、住所変更通知FAX用紙や連絡はがきは1995年版滄水会名簿の巻末に綴じ込んでありますが、お持ちでない場合は、下記の住所変更連絡票をご利用下さい。

住所変更連絡票

住所、勤務先等変更の際には、下記までFAXにて連絡あるいは郵送して下さい。

FAX番号 0427-63-9267

滄水会 職業能力開発大学校同窓会 事務局行き
-住所変更連絡票-

ふりがな				科名	卒業年	卒業期
氏名	姓	旧姓	名		19 年	期
勤務先	名称				役職	
	所在地	〒			TEL	
自宅	〒			TEL		